

「カキえもん」を育て、活かすスペシャリストの育成

北海道厚岸翔洋高等学校

研究の概要

本校のある厚岸町は北海道東部に位置し、豊かな自然環境をベースにした水産業の盛んな地域である。

本研究開発では、「カキえもん」を中心に3つの分野で研究を行い、広い視野を持って、地元の有用な水産資源を活用できるスペシャリストを育成することを目的とした。



「カキえもん」とは、厚岸の古来種のカキを、シングルシード方式で育てたカキである。

「シングルシード方式」とは、カキの貝殻を砕いた0.2mmの粒にカキの幼生を1粒附着させて育て、ある程度の大きさになったら、編みかごに移し替えて育てる方式である。

研究事項

1
年
次

- ・環境教育 : 厚岸湖・厚岸湾の環境調査、森を育てる実習、植樹活動、外来生物防除
- ・水産教育 : 新しいカキ養殖の方法について予備試験、餌料プランクトンの予備調査
- ・起業家精神教育 : 厚岸町内で販売されているカキの関連商品の市場調査
- ・講演「カキの種苗生産」「環境教育」「商品開発」「カキ・アサリを使った西洋料理教室」

2
年
次

- ・環境教育 : 厚岸湖・厚岸湾の環境調査、森を育てる実習、植樹活動、外来生物防除
- ・水産教育 : カキの耳吊り養殖の試験実験、カキえもん育成、カキの天然採苗
- ・起業家精神教育 : カキを使用した新商品の研究（カキみそなど）、ハーフシェル製品の試作
- ・講演「生食用カキの安全性を高める研究」「カキの養殖」「カキの種苗生産」

3
年
次

- ・環境教育 : 厚岸湖・厚岸湾の環境調査、森を育てる実習、植樹活動、外来生物防除
- ・水産教育 : カキの耳吊り養殖の検討、殺菌海水を用いての安全性の再検討、中間育成
- ・起業家精神教育 : カキみその試作、カキえもんを原料とした新商品の製品化
ハーフシェル状態でテイクアウトする方法の確立

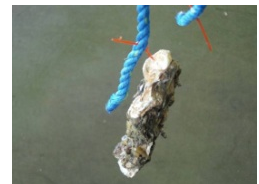
環境教育分野

- ・植樹活動や特定外来生物の防除活動、エゾシカによる被害木の対策などの活動をとおり、海と結びつきの深い、森林の環境保全についても学ぶことができた。
- ・3年間の環境調査（STDによる塩分、水温、水深）により、厚岸湖・厚岸湾は通年低温で、餌となるプランクトンも増殖しやすく、カキの成長にとってよい環境であることがわかった。また、水中カメラによる海底の観察では、貝類の死骸を多数確認することができた。
- ・北海道や厚岸町が地域の環境保全のために、さまざまな取組を実施していることを知るとともに、継続的な取組が豊かな環境を維持することや住民の一人として地域のために取り組むことの大切さを生徒が理解することができた。



水産教育分野

- ・垂下方法の違いにより、カキの成長の比較を行った結果、耳吊りよりカゴの方が成長が良かった。
- ・採苗方法の違いにより、カキの成長の比較を行った結果、カルチよりシングルシードの方が成長が良かった。
- ・比較試験の結果から「カキえもん」の養殖は、シングルシード方式でカゴを垂下する方法が、最も効率の良いことがわかった。



起業家精神教育分野

- ・カキえもんを利用した商品開発を進め、ペースト状発酵調味料である「カキみそ（命名：海乳）」を試作した。カキみそは調味料としてさまざまな料理に試用したほか、釧路根室の調理師会が実施した研修会で活用された。
- ・ハーフシェルの状態でテイクアウトする方法の研究に取り組み、トレーに入れて軽く空気が残るように真空パックする方法を確立した。
- ・ブランドを活かす取組から、生産・流通・販売・環境など広い視野にたった思考・判断をする機会を得ることができた。また、家庭料理ではなく、商品を開発するという視点に立つことができた。

